

月読命（第一段階） ver. 1.0.5

下記では、月読命から授かった技法をご紹介します。この文書は、その第一段階にあたります。第一段階は、癒しをメインにした技法です。第二、第三段階は、出来しだい公開させていただきます。全体がまとまりましたら、完全版を公開させていただく予定です。

今回ご紹介する方法は、どなたにでもできます。ただ、月読命のエネルギーをより身近に感じたい方は、伝授（アチューンメント）も可能です。月読命のエネルギーの伝授をご希望される方は、蒼月紫野までご連絡下さい。

月読命のご紹介

月読命（月讀命、月弓尊、月夜見尊、月讀尊とも表記されることがある）とは、天照大神を姉とし、素戔鳴尊を弟とする日本の三貴子の一柱であり、日本神話では月神、夜の領域を支配する男神です。古事記では夜之食國（ヨルノオスクニ）を支配する神となっていますが、日本書紀では青海原の潮流を治める神となっています。

万葉集に「月よみの持てる変若水」と歌われたように、若返りの水をももたらす神ともされていますが、どうやら占いにも関係している神のようでもあります。興味がある方は色々調べてみると面白いでしょう。

月の雫

概説：

水を用いた技法です。癒しのエネルギーを持った水があなたの体の内側から全体に広がり、穢れを祓い、すっきりした気持ちにさせてくれます。継続することで効果があがります。

効果：

- ・穢れがとれる。
- ・インスピレーションが冴えてくる。
- ・魂・ハイアーセルフが清らかになる。
- ・心が豊かになり、優しさに満ち溢れていくようになります。

手順：

1. カップに水を用意します。
2. それに右手をかざします。（左手が利き手でも右手にしてください。）
3. 口に出すか心の中で三回、「ツクヨミノミコト」（あるいは短く「ツクヨミ」でも構いません）と唱えます。
4. 水面に、新月から満月に満ちていく月が映っていることをしっかりとイメージします。満月の時は、月が一気に光る感じをイメージして下さい。（月の色は白や黄色など好きなイメージで構いません。）
5. そうすると、カップから月の光があふれ出すのを感じると思います。シャワーのように光が溢れ出したら完了です。
6. 月の光の力が体内に満ちていくのを意識しながら、ゆっくりお飲み下さい。

注意：

*この技法は、清流から汲まれた水をイメージしていますが、水道水でも構いません。ただ、望ましいのは天然水です。（加熱でも非加熱でも結構ですが、より良いのは非加熱です。）飲む清流から直接汲んだ水で行うと、さらに良いでしょう。

*カップは、月をイメージさせるものをお使い下さい。金属なら銀色、ガラスなら透明と黄色系・青系、陶器なら白から黄色、青の場合は薄い青をお使い下さい。全般に、赤・紫・緑・黒・ピンクは避けて下さい。ただ、月の模様などが書かれている場合は、色の問題は気にしなくても構いません。

*カップの水は、できれば早めに、遅くとも6時間以内に飲むようにして下さい。全部飲めないときは、空き瓶に入れて冷蔵庫で保管して下さい。温めないでください。太陽光には当てないように、当てるなら月光にして下さい。保存容器はガラス瓶が一番よいのですが、ペットボトルでも構いません。そのときは、事前によく洗って、他の飲料が残っていない乾燥した清潔な状態のものをお使い下さい。

*エネルギーを込めるときは、必ずカップをお使い下さい。ペットボトルは保存用としてのみお使い下さい。

*作る時間は問いませんが、夜のほうが強くなります。月が出ているとき、なかでも満月の夜に作ったものは特に強くなります。

*水の量は、カップ一杯程度で充分です。たくさん飲んでも、効果が上がるわけではありません。

*一週間に一度を目安にして下さい。毎日飲むほどではありませんが、飲みたい方はそれでも構いません。ただ、一ヶ月に一度では、あまり効果がありませんので注意して下さい。継続することが大切です。

*水を飲むとき、できれば、月の光を思い浮かべながら、月光が体内を通過していくイメージで飲むと効果的です。また、可能ならば、月光が第七チャクラ（頭頂）から第一チャクラまで到達し、

体全体に広がる様子をイメージすると、さらに効果的です。

*一気飲みをしたい方は、満月を飲むようなイメージでお飲み下さい。

新月の儀式

概説：

ムーンストーンと新月の力を用いて、自分の能力や魂の向上に繋がる願い事をかなえるための技法です。ひとつの願い事に集中し、必要な時間をかけて実現しようとするものです。ネガティブな願い事、エゴに繋がる願い事、他人に関係する願い事は効果がありませんので、ご注意下さい。

効果：

*自分の能力を高めたり魂の向上を願う方が、ひとつの願い事を時間をかけても実現したいときに効果があります。

方法：

1. ムーンストーンを両手で包み込むように持ち、リラックスした姿勢をとります。
2. まず心を静め、穏やかな気持ちになって下さい。
3. そして、口に出すか心の中で三回、「ツクヨミノミコト」（あるいは短く「ツクヨミ」でも構いません）と唱えます。
4. 心の中で新月の姿を思い浮かべます。
(新しいはじまりの月には、これから満月に向かうための満ちる力が溢れています。この力は、新しい事をはじめたり、何かを決断する時に有効な力です。)
5. 願い事を1つだけ決めて、月読命にお願いをして下さい。
6. そして願い事が石の中に入り、月読命の御神気と共に石の中に留まる様子を感じて下さい。
7. それが出来たら、二礼二拍手一礼を月にして、月読命にお礼を申し上げて下さい。
8. その後は石を布袋（できれば黒ないしは白）に入れて、常時持ち歩いて下さい。
9. 願いが叶ったら、流水でよく洗い、願い事が叶ったことに感謝して清めます。
10. 再度石に願いを封じ込める前に、必ず三回は満月時に月光浴をさせて下さい。

注意：

*この技法は、ひとつのムーンストーンを使ってひとつの適切な願い事をし、それが叶ったら、約三ヶ月の期間をおいて、次のお願いをすることを前提に作られています。複数のムーンストーンを使って複数の願いをかけることを禁止するものではありませんが、意識が集中するように、願

い事は極力ひとつだけにして下さい。

*願い事は、自分自身の能力や魂の向上に繋がるような事柄にして下さい。エゴに繋がる願い、ネガティブな願いは叶いません。他人のことを願ってもほとんど効力はありません。

*願い事をするときは、新月後24時間以内、日没から日の出までの間に行うようにして下さい。

*媒介としてムーンストーンを使うことで、月読命と繋がりやすくなります。ここで言うムーンストーン（月長石）は、ペリステライトやラブラドライト（いずれも別種の長石）ではありません。天然のムーンストーンに限ります。形状としては丸球（ビーズ加工されていない、球状のムーンストーン）が最良ですが、タンブル（磨き石）や原石（母岩など別種の鉱物が付いていないもの）でもかまいません。大きさは問いません。天然のムーンストーンであるなら、品質も問いません。

*丸球やタンブルがお手元にない場合は、ブレスレットやネックレスで代用することも可能ではあります。ただその場合は、ムーンストーンだけで構成されているか、少なくとも半分以上がムーンストーンで出来ているものをご使用ください。

*ムーンストーンは、願いをかける前に、浄化しておくようにして下さい。浄化方法は、一般に流布している浄化方法で構いません。

*願いをかけるムーンストーンは、一度月光浴をさせておくのが効果的です。月光浴は満月のときが最良ですが、願いを叶えたいときは月が満ちていく周期のときの月光をあてるようにして下さい。月が欠けていく周期の月光をあてると、逆効果になります。（例えば、良縁を求めるときは月が満ちていく周期で、反対に悪縁を断ち切りたいときは月が欠けていく周期で、月光浴をさせるようにして下さい。）

*袋は、天然の布製のものをお使い下さい。皮製は使わないで下さい。ビニールや合成皮革はなるべく避けて下さい。色は、できれば黒ないしは白をお使い下さい。布の袋は、手作りであれば最良ですが、市販のものでも構いません。

*アクセサリーに願いをかけた場合は、アクセサリーとしての使用方法で、常時身に着けるようにして下さい。

願い事について：

願い事は、自分自身の能力や魂の向上に繋がるものにして下さい。たとえば、「もっと集中力が向上しますように」や「他人の気持ちに配慮できるようになりますように」といったことです。反対に、「お金持ちになりますように」や「別れた彼氏/彼女と復縁できますように」という願いは、前者が能力や魂に関するものではなく、後者は他者の自由意志に関わる問題なので、この技法に適しません。そうした場合は、自分の能力や魂の向上に結びつくように、願い事を再構成してみましょう。

「お金持ちになりますように」という願いなら、例えば「仕事上で重要な機会を見逃さない、鋭敏な感覚がもてますように」とか、「仕事上で他人を納得させられるような表現方法を工夫して、効果的に使えるようになりますように」と言った事柄に置き換えると、自分の能力に結び付

いた願い事になるはずです。「別れた彼氏/彼女と復縁できますように」という願いは、自分自身の能力や魂の向上に置き換えることは困難ですが、例えば「もっと異性の気持ちが分かるようになりますように」とか「異性にとって魅力的と思われる事柄を自覚し、自分に潜んでいる魅力を引き出すことができますように」などの願いに置き換えることなら可能かと思われます。ご自分の願い事が何であり、それをどう置き換えれば自分自身の能力や魂の向上に繋がるものになるか、是非工夫してみてください。

二礼二拍手一礼について：

二礼二拍手一礼とは、「二回のお辞儀、二回の拍手、一回のお辞儀」をすることで神に敬意を表する作法です。この文書で二礼二拍手一礼という場合、この作法を意味しています。

ただ、一般的なやり方とは別に、神道上の正式な二礼二拍手一礼というものもあります。二礼二拍手一礼は神社の参拝作法でもあるので、神社によっては特殊な作法をとっているところもありますが、以下では、神道上で一般的とされる正式な二礼二拍手一礼の方法と意味を簡単にご紹介します。

1. 二礼（二回、頭を下げておじぎをする）

背筋を伸ばして、腰を90度折ります。（神への敬意を表します。）

2. 二拍手（二回、手を打つ）

胸の高さで掌を合わせ、右手を少し下にずらしてから二拍手します。その後、指先をきちんと合わせて神に祈りを捧げ、祈りが終わったあとで手を下ろします。（掌をずらすことで、神と人がまだ一体になっていない状態を表現し、二回手を打つことで神を招き、その後掌を合わせることで神と人が一体となった状態を表現して、そのときに神に祈りを捧げることで、神の力を授かるという意味があります。）

3. 一礼（一回、頭を下げておじぎをする）

再度、背筋を伸ばして、腰を90度折ります。（敬意を表して、神とお別れします。）

また、より丁寧な方法として、最初と最後に一回ずつ浅くお辞儀をする「一揖（いちゆう）二礼二拍手一礼一揖」という作法もあります。

満月の儀式

概説：

満月の月光を用いる技法です。満月の夜に月の光を浴びることで、心を清らかにし、雑念に囚われずに物事の本質を見極められるようになります。継続することで効果があがります。

効果：

*心が澄みわたり清らかになり、気持ちが癒されるのを感じるでしょう。

*この儀式を続けることで、段々と物事の本質を見極められるようになっていきます。

方法：

1. ムーンストーンを左手に持ちます。
2. 満月の夜、無理のない安全な状態で、月光浴をします。
3. その時に口に出すか心の中で三回、「ツクヨミノミコト」（あるいは短く「ツクヨミ」でも構いません）と唱えます。
4. 儀式が終わりましたら、二礼二拍手一礼を月にして、月読命にお礼を申し上げてください。

注意：

*野外で直接月光を浴びるのが理想的です。ただ、曇りや雨の日で月が出ていないときでも、満月の力は大気に満ちているので、夜気に触れるだけでも一定の効果があります。そのときは、満月の光が雲から突き抜けて自分がそれを浴びている姿をイメージするようにして下さい。月光が時々遮られるようなときは、自分の感覚で調整して、必要だと思われるだけ月光浴をして下さい。環境によっては、屋内で窓際から月光が差し込む程度でもよいですし、月光が差し込まない場合は、窓を開けて夜気にふれるだけでも結構です。

*散歩や読書をしながらでも構いませんが、夜なので危険がないよう充分にご注意下さい。

*月光浴は、満月後24時間以内に行うようにして下さい。月光浴の時間帯はいつでも結構です。最も力が強いのは満月が天頂にあるときですが、基本的に満月が現れた瞬間から効果があります。

*月光浴は、最低で5分から10分、長くても2時間が目安になります。長く浴びたからといって効果があがるわけではありません。環境や体調にあわせて、適度な時間で行って下さい。また、一度の満月で何度もおこなう必要はありません。満月の夜に一回だけで充分です。

*月光浴中は、常に月を意識するようにすると効果が高まります。

*媒介としてムーンストーンを使うことで、月読命と繋がりやすくなります。ここで言うムーンストーン（月長石）は、ペリステライトやラブラドライト（いずれも別種の長石）ではありません。天然のムーンストーンに限ります。形状としては丸球（ビーズ加工されていない、球状のムーンストーン）が最良ですが、タンブル（磨き石）や原石（母岩など別種の鉱物が付いていないもの）でもかまいません。大きさは問いません。天然のムーンストーンであるなら、品質も問いません。

*丸球やタンブルがお手元にない場合は、ブレスレットやネックレスで代用することも可能ではあります。ただその場合は、ムーンストーンだけで構成されているか、少なくとも半分以上がムーンストーンで出来ているものをご使用ください。

*ブレスレットやネックレスなどを用いる場合は、一旦外してから、左手にお持ち下さい。

アチェーンメント

月読命のエネルギーの伝授に興味をお持ちの方は、以下のサイトに内容と手順を記載しておりますのでご覧ください。なお、この伝授はお申し込みを受けた方に行うだけで、伝授された方がさらに第三者に伝授することはできませんので、あらかじめご了承ください。

<http://bluemoon.livedoor.biz/archives/51023835.html>

月読命との繋がりを深める技法などは第二段階以降にお知らせいたします。

この技法は蒼月紫野オリジナルのものです。特定の思想および宗教団体とは関係ありません。

著作権表示

Copyright 2008 蒼月紫野

<http://bluemoon.livedoor.biz/>

1. この文書は、蒼月紫野が著作権を有しています。
2. この文書は、Creative Commons Public License "Attribution Noncommercial No Derivative Works 3.0 Unported" もしくはそれ以降のバージョンの利用許諾に基づいて配布いたします。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/3.0/>

現時点での日本語訳の最新バージョンは以下をご覧ください。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/2.1/jp/legalcode>

3. 上記利用許諾により、この文書は、この著作権表示を含めて、一切の改変を加えず、非営利で配布する場合に限り、再配布を許可します。この文書の一部または全部を、使用もしくは改変・二次創作をすることで、新たな文書を作ることは禁止されています。

4. 上記の利用許諾に関する簡単な説明は、以下のページをご覧ください。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/3.0/>

現時点での日本語訳の最新バージョンは以下をご覧ください。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/2.1/jp/>

更新情報

2008年8月31日 初版 ver. 1.0.0

2008年9月1日 ver. 1.0.1-新月の儀式に追記。

2008年9月2日 ver. 1.0.2-ムーンストーンの説明を追加、二礼二拍手一礼を修正、他。

2008年9月4日 ver. 1.0.3-新月及び満月の儀式の注意書を追記・整理、他。

2008年9月5日 ver. 1.0.4-月の雫の注意書きに追記。アチューンメントを修正。

2008年9月6日 ver. 1.0.5-ムーンストーンの説明を追加、他。